

そうべていぼう
惣兵衛堤防

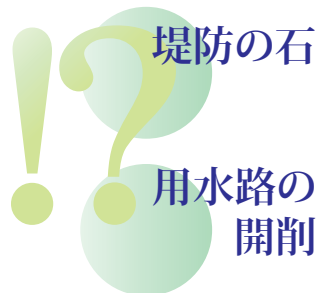
古の治水構造物

中村惣兵衛により、1752(宝暦2)年に完成した堤防。
大川除堤防、惣兵衛川除とも呼ばれる。
出水ごとに補強工事が施され、明治以後、上下流に数条の堤防も新設された。
1961(昭和36)年に発生した三六災害によって、惣兵衛堤防は破堤した。
現在は「嘉永の水天宮(1850(嘉永3)年建立)」と「惣兵衛翁供養塔(1854(安政元)年建立)」が残る。



嘉永の水天宮

1993(平成5)年、親水護岸工事により河床から掘り出された惣兵衛堤防の巨石と嘉永の水天宮



堤防の石

用水路の開削

惣兵衛堤防に使われた巨石は、1715(正徳5)年の末の満水の際に、大島川からの土石流によって運ばれた石であり、堤防建設現場へそりに乗せて運んだものであった。

堤防工事とあわせて用水路の開削が行われ、水口(取り入れ口)・水門なども造られた。

この用水路は、市田では大井(天竜井あるいは間夫井)とも呼ばれ、座光寺では内井・中水門、上郷では前川・中川・大水門と呼ばれる。



惣兵衛翁供養塔



惣兵衛堤防・伴野堤防・座光寺石川除の位置関係
(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)

information

□ アクセス

飯田線市田駅から
500m
徒歩→3分

□ 所在地

高森町下市田



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)